

シグマ委員会核データ専門部会核データ評価W.G.
重核 Sub W.G.実験法評価 Sub W.G.合同会合議事録

1. 日 時 昭和59年10月29日(月) 13時30分～17時
2. 場 所 日本原子力研究所東京本部第5会議室
3. 出席者 大沢, 神田(九大), 小林(京大炉), 村田, 川合(NAIG),
宝珠山(MAPI), 松延(住友原子力), 瑞慶覧(日立),
中島, 菊池, 浅見, 中川(原研)

4. 配布資料

- HN-84-11 重核同時評価用実験データ(^{238}U を除く): 中川
HN-84-12 同時評価の結果(10月17日の結果のグラフ): 神田
HN-84-13 一般化透過係数 T_{ℓ}^G と球形光学モデル透過
係数 T_{ℓ}^{SOM} の比較: 大沢

5. 議 事

1. 前回議事録の確認

- 前回の合同会合(59年5月18日), 2回の関係者会合(59年7月13日, 8月28日)の議事録を確認した。

訂正箇所は次の通り

7月13日の議事録の1ページ, 下から6行目

(誤) 相関の \rightarrow (正) 相関係数の

- これらの議事録をもとに中川委員が同時評価作業の経過を説明した。

2. 一般報告

- 11月13日～15日に核データ研究会が原研で開かれるが, 中国からの参加者があるので講演はできるだけ英語でやって欲しい。
- 核データ専門部会全体会合を12月14日に開く。

- 軽い核のプロット図ができたので近く発送する。
- 核データニュースは編集委員会をつくって年3回定期的に発行することになった。

3. 同時評価第1回目の結果

- 配布資料 (HN-84-12) をもとに神田委員から同時評価の結果について説明があった。今回は $^{197}\text{Au}(n, \gamma)$ のデータが十分に集まっていないので capture の評価は除いた。計算は50 keV ~ 20 MeV のエネルギー範囲で行った。
- 結果は JENDL-2A に近いものになった。特に 100 keV ~ 1 MeV では $^{235}\text{U}(n, f)$ と $^{239}\text{Pu}(n, f)$ は5%以上 JENDL-2 より小さくなった。
- 今回の結果について検討した。

4. 第2回目の同時評価

$^{235}\text{U}(n, f)$ などにさらに追加すべき実験データが残っているのでそれを追加した第2回目の計算を行うことにした。

実験データは11月中に原研から九大へ送る事にする。そして結果を12月14日の全体会合に間に合わせる事とした。

5. 一般化透過係数と球形光学モデル透過係数の比較

大沢委員が行った計算の結果について配布資料 (HN-84-13) を用いて説明があった。

[追] 17時~17時30分

同時評価の結果を Santa Fe 会議に報告することにし、11月15日までに提出する Abstract の検討を関係者だけで行った。